

三陸の海を放射能から守る
岩手の会

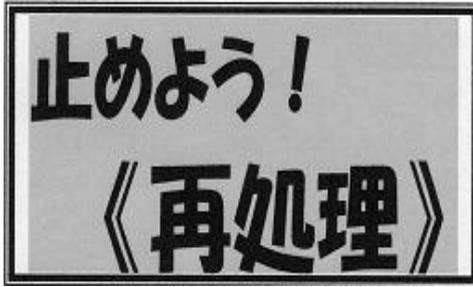
三三三通信 第31号

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《岩手の環境 / R I 廃棄物 / 再処理》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《まった再処理分庫》



2006 (平成18)年

12月 27日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX

019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650

廃液量や放射能除去装置の情報を公開せよ

原燃への質問要請行動 98市民団体が連名



十一月二十二日、青森県六ヶ所村の(株)日本原燃において、全国の九八市民団体が連名で提出したアクティブ試験に係わる質問並びに要望書について、交渉が行われました。原燃側からは、広報地域交流室広報部総括グループの鈴木良典副部長ら三氏が、市民団体側からは「花とハープの里」菊川慶子さん、「美浜の会」代表小山英之氏、「三陸の海を放射能から守る岩手の会」世話人永田文夫さんから十一人が出席しました。

試験日程の遅れは

せん断のトラブルか

まず、市民団体は、第二ステップの日程について、「トラブルによって約二ヶ月程度遅れているのはなぜか」と、説明を迫りましたが、原燃担当者からは特に反論がありませんでした。

燃料集合体のせん断が約一ヶ月半中断した理由について原燃は、「分析再現試験を優先し、慎重かつ丁寧に行ったため」と回答しましたが、市民側が、ホームページの、八月十九日深夜の排気筒モニターグラフでは明らかにせん断機械のトラブルが示されていると指摘しました。原

放射能除去装置は

つけられないのか

次に、八月十八日夜のクリプトンガスの降下、停滞のためと思われる工場敷地内EEMモニターの異常値について追及しました。

特に、岩手の会永田世話人は、「三月五日の東奥日報には、元原研技術者の『クリプトン除去技術はもう出来ている。お金さえかければ除去出来る』という発言が載っている。安全協定では、廃液や排ガスについて最新の技術で放射能の低減措置をするとしており、協定違反ではないか」と追及しました。これに対して原燃担当者は「排出ガスや廃液からの

放射能除去装置は今の段階では実用化出来る技術は確立していない。JAEA(日本原子力研究開発機構)がクリプトン関係の除去の開発研究をしていると聞いている。」と、まるで人ごとのような回答をしました。

六ヶ所のMOXが「核不拡散に優れている」とどうして言えるか

原燃は十一月に初めて生成した「ウラン・プルトニウム混合酸化物」を、「核不拡散性に優れている」と発表しました。しかし、それは、どのような根拠からいえるのか。国際原子力機関(IAEA)の基準ではMOXからプルトニウムは数週間抽出可能とされていると追及しました。

これに対して、原燃側は「国際原子力機関の基準ではなく、『物質の特性』から、プルトニウムの転用が難しいのである」としか答えませんでした。

この他、放射能廃液データの公表について、「検討中」と回答しました。

提出された質問への文書による回答を、後日行うことを確約し、約一時間の交渉を終えました。

私たちは

六ヶ所再処理工場を

動かさないよう訴えます。

一二人の著名人がアピール

「六ヶ所再処理工場を直ちに止めよう」というアピールが、十二月十四日、東京で発表されました。記者会見したのは原子力資料情報室共同代表西尾漢氏ら五人で、「将来の平和を保証し、子ども達を守るために、放射能のリサイクルを止めさせましょう」と訴えました。アピールには、既に一二人の著名人が署名し、かつてない広がりを見せています。



写真は「原水禁」ホームページから

人が多くいます。

市川定夫氏

(埼玉大学名誉教授)

記者会見の様子は「原子力宅急便」(原子力資料情報室ホームページ)で、動画(四〇分)により報じられています。会見した五氏は、六ヶ所再処理工場の危険性を次のように強調しました。

西尾漢氏(原子力資料情報室共同代表)

再処理工場の危険性を訴えて何回か「アピール」を出してきましたが、今回は一二人の連名を受けました。原子力推進の立場の人にも「再処理」については疑問を持っている

神田香織さん(講師)

「はだしのゲン」や、チェルノブイリ原発で犠牲となった消防士の家族をテーマとする講演を演じてきました。六ヶ所再処理を進めることは、ヒロシ

マ、チェルノブイリの悲劇につながる恐ろしさを感じます。

土本典昭氏

(記録映画作家)

今でも誰でも知っている「水俣病」について、一九六五年頃には、多くの人は無関心でいました。もっと早く気づくべきでした。巨大開発はその地域の住民を追い出し、大工場と集落の間に広大な無人地帯をつくりだし、例えばこの再処理工場で何をやってても反対できない状態を作り出しました。再処理を許せばその被害は、甚大

なものになるでしょう。

福山信劫氏(原水禁国民会議事務局長)

北朝鮮の核武装をやめさせ、東アジアに平和な非核地帯をつくるために、日本は世界中から注目されています。六ヶ所工場は日本の核武装の素地をつくつてしまっています。原水禁の願いからして再処理はやめさせよう。

小中陽太郎氏ら

六氏がメッセージ

記者会見では、「全ての核保有国が核軍縮し、また兵器につらなる核燃料の再処理をとめるように訴えます」とする小中陽太

郎氏(日本ペンクラブ)のメッセージなど、六氏からのメッセージが発表されました。メッセージを寄せたのは小中氏のほかに、須田春海(市民活動全国センター)、水口憲哉(東京海洋大学名誉教授)、室田武(同志社大学大学院教授)、森詠(作家)、森村誠一(著述業)の各氏です。

仙台の市民団体「わかめの会」

放射能を三陸の海に流さない事を求める署名

宮城県 県議会に提出

この他今回のアピールには、石牟礼道子、大貫妙子、小田実、鎌田慧、小出裕章、小室等、坂本龍一、田島征三、中川李枝子、中村敦夫、羽田澄子、前田哲男、広瀬隆、藤田祐幸、湯川れい子氏など各界の著名人が名を連ねています。

「放射能に汚染された三陸の海を子ども達に残してはならない」として、三陸・宮城の海を放射能から守る仙台の会(通称・わかめの会)。(大友佳代子代表)二十人は、十二月十三日宮城県庁を訪れ、県知事と県議会に対して、「県民の理解が得られるまで、青森県と日本原燃(株)に再

岩手 東和町で学習会

十二月二十一日、花巻市東和総合福祉センターで「再処理工場が岩手にもたらす影響について」をテーマとする学習会が開催されました。集まったのは東和町近隣の農業者など二十九人。講師として招かれた永田文夫さんから、六ヶ所工場の危険な実態と、増え続ける「核のゴミ」の捨て場として、北上山地が狙われていることなどが報告されました。

岩手県教組 高教組教育研究集会で「六ヶ所」学習

一月一八〜一九日開催された岩教組、高教組教育研究科会「環境問題と教育」(二〇人)では、六ヶ所再処理と海洋汚染の問題が取り上げられ、日教組全国教育研究集会へ代表を送り発表することとなりました。

三陸の沿岸沿いに宮城県沖まで広がり、日本の水産業の根本を揺るがしかねない「これからも私たちは安心して三陸の海産物を食べたい」などを訴えました。この模様は、特に、水産業界紙「みなと新聞」(日刊・本社山口県)が大きく取り上げ報じました。